

令和3年度（2021年度）

第1回道史編さん委員会産業・経済部会議事録

日 時 令和3年12月13日（月）10:05～12:00

場 所 かでる2・7 710号会議室

出席者 坂下部会長、奥田委員、青木委員、板垣委員、  
市川委員、柿澤委員、小坂委員、小田委員、韓委員、  
満菌委員、宮澤委員、矢部委員、小川委員

1 開 会

2 議 事

（1）編さん作業スケジュールについて

（2）『北海道現代史 資料編2（産業・経済）』原稿案について

ア. 集約状況

イ. 各章原稿案の検討

企画編集部会指摘事項

（3）作業依頼

ア. 解説文の執筆

イ. 資料掲載原稿の点検・補記

（4）口絵用資料の収集・選定について

（5）その他

3 閉 会

## 1 開 会

### 【坂下部長】

- ・掲載原稿を出していただき、改めてお礼申し上げます。
- ・本日は全体のスケジュールの確認と、原稿についての意見交換などを行い、この後は著作権の問題などもありますので、多少調整していただいて、3月には解説文も含めて前提が仕上がり、親委員会に諮るということになる。
- ・編さんスケジュールについて事務局から説明してください。

## 2 議 事

### (1) 編さん作業スケジュールについて

#### 【事務局】

- ・別紙1をご覧ください。先に点線の下の方の来年度の部分からご説明すると、原稿決定後は5月に社内決定と印刷契約の準備、6月に入札、契約、入稿を行い、その後3回の校正を経て、3月に納品、刊行の予定。非常に短い期間で行う印刷契約のため、入稿後には掲載原稿を大きく取り替えるといったことは、基本的にできない。
- ・上に戻っていただくと、11月22日の企画編集部会では、各章の掲載原稿と目次構成案について検討をしているが、時間が短かったこともあり、今後さらに企画編集部会で検討を重ねていくことになる。
- ・本日の部会後には、12月24日までに掲載資料の修正を行っていただき、1月17日までに解説文を、1月28日までに掲載原稿の点検・補記をお願いしたい。
- ・著作権者・資料所蔵者の承認を得る作業は、現在進めているところで、著作権者、資料所蔵者の許可が得られないとか、新聞記事の掲載料金がなくて払えないということがわかったら、すぐに委員にお知らせし、対応していただく。
- ・2月の企画編集部会では、修正を行った掲載資料原稿と解説文を諮り、3月の企画編集部会では加えて口絵の内容も諮る。これが何回になるかわからないが、固まり次第、桑原編集長と坂下部長に解説文の監修をお願いし、4月の道史編さん委員会で承認をもらって原稿完了となる。編さん委員会委員長から、企画編集部会で十分練った上で委員会に上げて欲しいとのご意向があることから、このように企画編集部会を何度も開いて精度を上げるという流れになっている。
- ・委員には、企画編集部会の検討結果や著作権問題へ随時対応していただきたい。

#### 【坂下部長】

- ・作業自体は1月中にはほぼけりをつけて、次の企画編集部会前に固めていただく。産業・経済部会の開催は今年度は本日を最後とし、あとは私や事務局から個別にご相談させていただく。

### (2) 『北海道現代史 資料編2 (産業・経済)』原稿案について

#### ア. 集約状況

## 【事務局】

- ・今まで委員にやっていただいた作業としては、初めは昨年12月が掲載資料の締め切りだったが、集約状況が悪く、4月上旬に再度一斉に掲載資料の提出をお願いし、6月末にいただいた分の入力原稿をまとめて、二次選別を依頼した。この時点では、平均すると現在の約2倍、一番多い分野で5倍近くあった。10月中旬に二次選別の結果をとりまとめ、続いて目次案を作成してもらうなどして、10月末にほぼ現在の形になった。
- ・別紙2をご覧ください。各委員の分担頁や、掲載資料の使用頁数、また資料の掲載点数、それを割り返して1点当たりの使用頁数を記している。次の掲載不許可による減は、今後出てくるかもしれないもので空欄になっている。掲載資料の頁は現在940頁あり、解説頁の合計と合わせると1,045頁になる。計画では、掲載資料と解説文で1,000頁、目次や凡例等50頁と合わせて1,050頁としている。

## 【坂下部会長】

- ・著作権の問題がまだはっきりしていないが、断られたからといって落としてしまうとまずいものもあるので、それについては手持ちの資料で入れ替えしてもらったり、あるいは無しにしてしまうことになる。
- ・資料1点あたりの長さは平均すると2.5頁あるが、見ていただいてわかるように多い人と少ない人の差はまなり大きい。短いのは、二次選別のときに短くしてたくさん資料を載せたいと考えた結果だと思うが、資料があまりに少ないと内容がわからない場合もある。一方、長い方は本当にこんなに必要なのか、中略できないのかも考えてもらいたい。

### イ. 各章原稿案の検討

## 【坂下部会長】

- ・企画編集部会で指摘されたところも紹介しながら進めたい。スタイルとして変わっているのは、文末にあった資料の出典を前に持ってきたこと。また資料については、年史や新しい時代の新聞記事は控えた方がよいという意見があった。
- ・各章ごとに掲載資料の考え方などを紹介してほしい。

### 〈第一章 地域経済と経済政策〉

## 【小田委員】

- ・著作権者あるいはその遺族が分からないので掲載できない場合にどうするかということでご相談したい。例えばNo.8に苦東開発に対するアピール文があるが、誰が最初の草案をつくったのかもわからないし、探しようがないので載せないことにした。代わりに『苦小牧民報』がこの時期に反対する会のことを書いた記事載せることにしたが、「アピール文はこういうところに載っている」と文末に書いたら親切かなと思うがどうか。

#### 【坂下部長】

- ・解説に書いたらよいと思う。解説に書けなければ通史で。

#### 【奥田委員】

- ・私もいろいろな事情で載せられないけれども大事なものはあり、解説で触れるしかないかなと考えていた。
- ・私の担当では、第二節のタイトルを少し変えた。「経済構造と労働・人口」となっていたが、「経済構造と雇用・人口」とした。第10章労働運動との分担をはっきりさせるため、こちらでは労働市場や労働力問題を扱う。

#### 〈第二章 農業〉

#### 【坂下部長】

- ・私のところでは、当初予定していた資料の差し替えが多少あった。No.2①「満洲」からのJターン入植でも昔の新聞に替えたり、農地改革ではGHQの文書を使ったが、みつからないのと不鮮明だったのとで載せられなかった。
- ・東山委員の選んだ資料との間で、時代的に少し開きがあるけれども、基本的に通史のための資料ではなく資料そのものの価値で集めてくるという趣旨なので、よいだろうと思う。

#### 【小川委員】

- ・『北海道農地改革史』に載っている資料でありながら現物を探しきれなかったところがあり、同書からの引用となってしまったのは残念だった。
- ・公的記録ではあっさり書かれていても、当事者の体験記録ではかなりリアルに書かれているものがあり、載せるかどうか迷ったけれども、個人のプライバシーに関わることなので資料編への掲載は見送ることにした。解説文でフォローしていくことで、公的記録とのバランスをとろうと考えている。

#### 〈第三章 林業〉

#### 【柿澤委員】

- ・当初は通史的に資料で全体の流れがわかる資料を選んでしたが、資料性の方を重視した方がよいということだったので、途中から変更した。後半部分は業界紙から林業の発展状況や展開状況を引き出すという形になっている。またできるだけ生の声を入れたり、古い新聞記事も含めてバラエティに富んだ資料で状況がわかることを心がけた。

#### 〈第四章 水産業〉

#### 【宮澤委員】

- ・基本的には、業界と公的機関、北海道庁あるいは開発局の水産関係の古い文書を中心に集めた。ルポや新聞記事を載せる余裕がなく、少し堅苦しい文書ばかりになったのは反省といえば反省。中身としては重要だけれども一般の目に触れることがないような「漁業権切替方針」、あるいは業界団体の要請書をフォローするところ

に力点を置いたので、それはよかった。

- ・No.27は、『北海道水産業の現況』がまとまりがよいので使ったが、どこの図書館でも見られる文書なので、場合によっては削ることができる。
- ・No.28で使った『道漁連 60年の軌跡』は、所蔵場所を北海道大学水産学部図書館としているけれども、信漁連・漁連図書資料室に変更した方がよいかと思っている。

#### 【坂下部会長】

- ・行きやすいところであればどこでもよいけれども、事務局と相談してほしい。
- ・全体の分量が少し多いので、No.27は調整対象になるかもしれない。

#### 〈第五章 工業・情報通信〉

##### 【板垣委員】

- ・基本的に企業の資料が中心になっている。以前部会で中小企業もという話があったけれども、企業のもっている資料の方が資料的価値があると思い、そちらを中心にしている。
- ・No.3は面白い資料だけれども個人名がかなり載っており、ここまで載せる必要もないので、個人名のところを〔人名〕としてもよいかと思う。
- ・No.15は、雪印資料館の原資料を使った。資料的価値は高く、またこの時期の話をする上で非常に重要だけれども、社史にも載っているのでアクセスから見れば手に入らないものではなく扱いに悩んでいる。
- ・No.24、No.25の資料タイトルは「生産の多様化」となっているけれども、「製品の多様化」に替えた方がよいかもしれない。

#### 【坂下部会長】

- ・第五章は章と節の間に【工業（資本財）】【工業（消費財）】【情報通信】と入っているが、ここはそのやり方でよいと思う。

#### 〈第六章 商業〉

##### 【満菌委員】

- ・準備段階では四節構成で考えていたが、資料1点あたりを意味がとれるレベルで掲載しようとするとう資料を絞ることになり、結果として三節構成になった。
- ・気になっているのは、私のところは商工会議所や企業の資料を積極的に載せようとしていて、掲載許可が先方からとれるのか不安がある。早めにそちらを対応して目途をつけていただけると、次の作業に移れる。自分の感覚では、かなり不許可になる感じもしていて、そうすると次を考えなくてはならない。

#### 〈第七章 建設業・交通〉

##### 【矢部委員】

- ・矢部と申します。昨年春まで30年以上北海道建設新聞社に勤務し、主に北海道庁、開発局、北海道建設業協会といったところを取材してきた。

- ・建設業は他の産業とは構造的にかなり違っていて、基本的に請負業のため自ら施策を発信することは難しく、道庁、開発局、国土交通省等からの通達等を受けて業界の構造改善を進めていくという、受け身の産業。そうした中で、一企業や団体の取り組みだけを追ってもだめなわけで、しかも最近の資料はあっても、戦後からとなるとほとんど残っていない。
- ・伊藤組土建と北海道建設業協会の二つには原本や議事録が残っていて資料的価値もあるが、出典のバラエティや特定の企業だけという問題はある。差し替えるのは可能とは思いますが、資料のレア度からいえば、実際に施行した業者の言い分が伝わってくるものの方が、公共的なものよりもよいのではないかというのはある。
- ・選別でかなり削ったので、分量が1資料あたり平均1.4頁ということになった。事務局と話しながら調整しなければならないと思っている。

#### 【坂下部会長】

- ・百年記念塔については、企画編集部会で、道で作った塔だから道の文書を使った方がいいのではという意見が出ていた。また1点当たりが少し短いかなという気がしたので、可能であれば少し増やしてもよいのではないか。

#### 【矢部委員】

- ・社内報は中心的な部分だけを抜き出したので、増やすことも可能。

#### 【市川委員】

- ・交通の資料は国鉄関係が多くなるのが自然ではあるが、国鉄に関しては『北海道鉄道百年史』や国鉄時代の資料集も出ており、アクセス可能な資料はかなりある。国鉄は重要ではあるけれども、これまであまり注目されて来なかったということで、あえて国鉄関係は落とし、私鉄・自動車・トラック・バス・航空機・船舶といったところを重視して選別した。交通でこの構成なのかという印象はあると思うので、解説の方で、国鉄の方はすでにあるので、という選定方針を述べる。
- ・著作権・許諾が確定すれば減らさざるを得ないところが出てくるので、それが早く分かるとうれしい。例えば、No.37では公人の名前が肩書き付きで載っていて、個人的には問題ないと思っているが、問題があるとすればそうした部分を切っていけば適当な量になるのではないか。

#### 【坂下部会長】

- ・企画編集部会では、青函トンネルくらいは載せた方がよいのではという意見があった。随分長い期間がかかっているのだから、どの部分をという具体的なことではないが。

#### 【市川委員】

- ・トンネルの構想は洞爺丸台風の前からあったので、そのあたりを載せるか、あるいは完成時を載せるか。確かに青函トンネルがないのは落ちている感じがあるので、できるだけ短いものを探してみる。

## 〈第八章 鉱業・エネルギー〉

### 【青木委員】

- ・石炭鉱業と金属鉱業のバランスがあまりよくないかという気がしているが、一応組んでみたところ。
- ・分量の関係でテキストの長いものは相当削りを入れたが、内容がきちんと伝わるだろうかという不安を抱えている。一部の資料には図表も入れたが、見えるだろうか。
- ・全体にもう少しウェットな資料がないかと思ったが、結果的に資料らしい資料だけということになって、このあたりが反省材料。

### 【事務局】

- ・ここに載せている表の大きさでは見えないので、少なくとも倍の大きさにする予定。

### 【小坂委員】

- ・私の選んだものは資料的価値という意味ではそうでもないものも含まれているが、なかなか知られてはいないけれども、道民として知っておいた方がよい事柄、それに関する資料という観点で選んだ。
- ・石炭関係は青木委員にお任せするという事になっているが、それでも石炭火力にまったく触れないわけにはいかないもので、北電の関係として扱うこととした。
- ・今回意識したのは、エネルギーの現況からみて重要なものを拾い上げるということ。道内の天然ガスの産出の歴史や、サハリン・シベリアなど近隣諸国の天然ガスとの関係は、歴史的にも課題があったし、将来的な見通しも含めて天然ガスを扱う、そのための資料ということで抽出した。
- ・再生可能エネルギーについても、北海道は風力の最大のエネルギー基地として注目されているが、戦後から北海道の固有資源としてあったわけで、風力発電の北海道での位置づけがわかるような資料ということで選んでいる。

### 【坂下部会長】

- ・そういった内容の解説文にさせていただければと思います。

## 〈第九章 金融・観光・サービス産業〉

### 【坂下部会長】

- ・佐藤委員は今日はお見えではないのですが、企画編集部会でご指摘のあったものを紹介しますと、金融については拓銀破綻の直接的資料が載っていないので、是非載せた方がよいということと、信金の記念誌が多いので検討した方がよいという意見があった。観光では第2節(2)に後ろに載せた方がよいものが入っているようなところがあるので、これも検討された方がよい。

### 【小川委員】

- ・アイヌ民族と観光を担当した。論点としては、実際に観光業に従事してこられた

方々に関わるところと、北海道観光の中でアイヌという象徴性の取り上げられ方のところと二つある。それぞれ関連する資料はあるが、実際に掲載する資料は相当絞り、特定の地域や個人が遺した資料とした。全体的な傾向は、解説文の中で補うことを考えたい。

#### 【韓委員】

- ・かなり資料集めに苦勞した。本来ならば、多様な産業であるサービス産業では、いろいろなものを取り上げるべきと思っていたが、資料を残すような主体ではないことがわかり、結果的にあまり集められなかった。
- ・飲食業はサービス産業とは別個に分類されるが、北海道ならではのことで No.63 で取り上げたが、資料的価値でいうと悩ましいところがあるので、削除させていただくかもしれない。
- ・かなり早めの段階で新聞記事は望ましくないと言われたことを重く受け止めていて、初期の頃の旅館業・ホテル業が抱えている状況がわかるものを載せたら面白いと思ったが全部省いてしまい、選択した資料はどこでも見られるものになった。
- ・第2節の観光関連に資料が集中してしまっていて、ご意見をいただければと思う。

#### 【坂下部会長】

- ・最初は新聞記事が多かったのもそういうことだったと思うが、古い記事はよい。

#### 【事務局】

- ・絶対だめということではなく、ほかでも古い新聞記事を中心に載せている。著作権料は、昭和42年末までのものであれば払わなくてよい。90年代以降の記事は、検索すれば誰でも見られる状態になっていて、そういう環境の問題はある。

#### 【坂下部会長】

- ・遠慮されたみたいなので、具体的ところで古い新聞記事を使ってもいいかなと思う。
- ・節のバランスの問題があり、節の中に資料が一つしかないものもあるあたりをもう少し組み替えてもよいかもしれない。
- ・第10章、大藤委員は欠席ですが、特になかったです。
- ・今回で今年度の産業・経済部会は最後になり、あとは個別のご相談になりますが、せっかくですから心残りのないように良いものにしていただきたいと思う。

#### 【小坂委員】

- ・アイヌ民族の問題を扱う場所について、どういう仕組みになっているのか。

#### 【事務局】

- ・小川委員は全部会に属し、アイヌに関するものを一括担当する。産業・経済の分野では農地改革と観光が特に取り上げるべきところだというご判断。

### (3) 作業依頼

ア. 解説文の執筆

【事務局】

- ・別紙3、別紙3付に基づき説明

【坂下部会長】

- ・私の解説文は書き方の決まりができる前だったので、年号や文献の書き方などは今の説明のようにしてください。
- ・解説文は自分のやり方で、常識の範囲内でまとめていただくくらいでよいと思っています。あまりにもはずれている場合は修正をお願いすることもあると思いますが、私の解説文は見本ではなく例だというふうに考えてください。
- ・解説文の中の資料番号は章ごとにふられる番号だが、番号のみで章名は付かない。タイトルのあとの名前入りの番号はあとではずされるものなので使わない。
- ・書いているうちに、私も順番を変えた方がいいかなと思ったこともあり、解説を書けばそういった変更も出てくるかもしれない。

【板垣委員】

- ・原稿は縦書きでも横書きでもよいのか。50字17行というのがあるが。

【坂下部会長】

- ・縦書きの方が事務局は助かるかも知れないが、それよりも早く出してほしいということで、どちらでもよい。多少ずれはするけれども字数でやってもらいたい。

イ. 資料掲載原稿の点検・補記

【事務局】

- ・別紙4に基づき説明。
- ・事務局で点検はしているけれども、まだまだ誤りがみつかる。今後も事務局でじっくり見て行くが、並行して委員にも点検をお願いしたい。ただ、以下の場合ミスではないということを、1に挙げている。
- ・2の①誰が見ても明らかな誤字は注なしで修正している。②専門用語などで一定の留保が必要なものは右下の例のようになる。こういった用語は委員でなければみつけられない。
- ・3の「编者注」も委員でなければわからないものがあり、左下に掲げた例のように補足して欲しい。

【坂下部会長】

- ・該当箇所部分だけを送ってください。手元に原本がない場合は事務局に連絡をとってください。

【矢部委員】

- ・できるだけということだが、名前の補記は結構な負担になるのではないか。

【事務局】

- ・すべての人名に必要なわけではなく、公的立場の補記すべき範囲は限られる。

**【宮澤委員】**

- ・古い文書では、漢字があるのに平仮名になっているものがあるが、漢字になおす必要はあるか。

**【事務局】**

- ・平仮名のまま、原本のとおりでよい。

(4) 口絵資料の収集・選定について

**【事務局】**

- ・口絵を冒頭に載せることになっているが、その目的とするところは、中身への興味をかき立てる導入としての役割や、本文は文書資料中心であるため、視覚資料をまとめて紹介する意味もある。写真が多いと思うが、ほかにポスター・パンフレット・絵図など。
- ・事務局ですでに文書館・図書館等に行って使えそうなものをピックアップして目録を作っているが、加えて委員からの情報提供をお願いしたい。使えそうな写真を持っている、ここにこういう資料がある、資料調査のときにこんな図面があった、あるいは具体的な心当たりはないが、こういうのがあったらよい、など。それに沿って、個別にあたりをつけて探していく。
- ・資料が集まり次第、収集資料目録等をお送りする。収集資料の中から2～3点を選んでいただき、それにキャプションを付けていただきたい。
- ・写真等は文書資料と同様著作権があり、加えて写真には肖像権がある。稀少性は文書資料と同様重視したいので、年史で使っている資料とか、有名な報道写真などはできるだけ避ける方針で収集できればと考えている。
- ・参考までに他県史の産業・経済編に掲載されていた口絵を載せている。写真が圧倒的に多いが、最後に載せた2点はビラや個票を使っている。

**【柿澤委員】**

- ・掲載するのは、取り上げた資料に関わるものか。通史は必ずしも資料ですべてリカバーできるわけではないと思うが、資料編の口絵では資料に関係する写真ということによいか。

**【事務局】**

- ・関わるものがあれば、キャプションで資料番号を付せば文書資料と一体で見られるのでよいと思う。ただすべて適当な写真が見つかるわけではないのと、文書資料はなかったけれども、その代わりに写真を載せて通史の理解につなげるということも重要だと思うが、坂下部長いかがか。

**【坂下部長】**

- ・写真は見てもらってわかるように、よくあるものしかない。パンフレットやポスタ

- 一でもよい。戦後の時代が目で見えてわかるようなものがよいのではないか。
- ・基本的には事務局で集めていただいているのが中心で、もし他にあればという程度の位置づけでお願いしたい。

(5) その他

**【宮澤委員】**

- ・資料編のスケジュールは説明いただいたが、今後通史編のスケジュールはどんな感じになるのか。

**【坂下部会長】**

- ・それは私も直接存じ上げないが、ここまで一気にきた後で、空白があるとまた元の木阿弥になってしまう。なるべく早くとは思っているが、決まっていることはありますか。

**【事務局】**

- ・まだ決まっていませんけれども、今部会長がおっしゃったようなことですので、部会長とご相談しながらスケジュールをお示ししていきたいと思っている。

**【坂下部会長】**

- ・企画編集部会で産業・経済編がだいたいまとまった時点で、「おおよそこうなる」というものを出していただきたい。なるべく途切れないようにしたいと思っている。  
産業・経済部会を終わります。

(以上)